

会議録

- 会議名 令和7年度 八雲町防災会議
- 日時 令和8年2月25日(水) 午後1時28分～午後2時20分
- 場所 八雲町役場2階 第1・第2会議室
- 出席委員 22名(随行者6名)
- 事務局 3名

《発言要旨》

1 開会 危機対策課長

2 町長挨拶

3 議事

(1) やくも防災フェスタ2025事業報告及び決算報告

○事務局(危機対策課)より事業内容及び決算報告を別添資料に基づき報告

○監査報告:八雲町町内会等連絡協議会 大野会長

会計監査の結果「正確かつ適正である」との報告

(上記議事、質疑なし)

(2) GPSを用いた津波避難シミュレーション、災害協定締結などの報告

○事務局(危機対策課)より昨年11月実施の町内会防災体験型イベント時に作成したGPS活用の津波避難シミュレーションについて説明

(要旨)

今回の町内会では地震発生から60分以内の立ち退き避難においては、避難に成功する可能性が高い。地震発生から70分後での立ち退き避難では津波に巻き込まれ、遭難する避難者がいる可能性が高い。

避難方法:参加者各々が最善と考えられる手法にて経路と手段(徒歩・自転車・車)を選択

令和8年度以降も引き続き他の町内会での実施を検討する。

○北海道大学広域複合災害研究センター、八雲町社会福祉協議会との協定締結について報告

(質疑)

○航空自衛隊八雲分屯基地司令

シミュレーション動画をホームページ等で公開し、住民への周知を強化したほうが良い

⇒事務局(危機対策課)

ホームページ掲載について進める。

○八雲消防団長

津波浸水想定最大の想定浸水区域のみならず、3 m、4 mなど現実的な規模の津波シミュレーションも必要ではないか。住民が状況を理解しやすく柔軟な判断が可能になるのではないか。

また、昨年7月30日カムチャツカ半島地震では実際に津波が来なかったケースを踏まえ、より臨機応変な対応を求める声があった。

○事務局（危機対策課）

八雲町は複合災害リスクを抱えており、常に最大規模を想定した対応が重要であると勘案する。国や北海道の動向も注視しつつ、津波警報浸水想定区域なども検証してまいりたい。

（3）今後の防災施策について

○「八雲町地域防災計画」、「応援受援計画」等の改定・策定

北海道大学広域複合災害研究センターと連携し、令和8年度から令和10年度の3か年で改定・策定を行う。

地域防災計画の主な検討：災害対策本部設置基準の見直し（林野火災、津波警報対応等）

非常配備体制の細分化（情報収集体制の新設）

新庁舎移転に伴う防災拠点変更への対応

不発弾発見時の対応追加 など

業務継続計画・応援受援計画策定：新規策定予定（地域防災計画と調和）

大規模災害時の各機関の初動対応明確化

令和8年度以降に図上訓練企画を予定する

○孤立集落対策・災害備蓄品分散配備

現在の管理方法から地域会館等への分散配備へ移行予定。

屋外の指定避難場所には直射日光等を緩和できるよう屋外使用可能なテント、トイレ、ストーブなどをあらかじめ配備する。防災備蓄庫を用意のうえ、既存の備蓄品に加え順次用意する。

防災備蓄庫の配備計画として、黒岩地区、落部地区の指定避難場所を計画する。

3月の定例議会で令和7年度補正予算審議予定

○避難行動要支援者対策のより一層の推進

ケアマネージャー等福祉専門職との連携拡大により個別避難計画作成の推進を勘案している。

関係機関（消防、警察、民生委員、町内会）ともより緊密な連携を推進したい。

○防災士資格取得支援制度の創設

令和8年度予算の議会審議を経て、制度を創設する計画

支援内容：1人あたり63,800円（受講料、受験料、登録申請料）

対象：北海道地域防災マスター認定者、八雲防災ネットワーク参加者など、支援要件を精査中

予算：15名を上限として当初予算に計上予定

（質疑なし）

4 閉会